

(大阪民主新報 2017年12月24日号に掲載されたものです。)

市民集会「80年目の南京」が11月26日、大阪市中央区のドーンセンターで開かれ、450人が参加しました。集会実行委員で日中友好協会大阪府連理事長の松尾豊さんの手記を紹介します。

過去の歴史見据え、過ち繰り返さないために
集会「80年目の南京」を取り組んで

松尾 豊 (日中友好協会大阪府連理事長)

今年は、日中両国間では、盧溝橋事件80年、南京大虐殺から80年、「日中国交正常化45周年」の節目の年に当たります。

私たちは過去の歴史を正面から見据え、同じ過ちを繰り返さないために、中国侵略の象徴である「南京大虐殺」の事実を明らかにし、調査に基づいた歴史事実を積み重ね、市民の皆さんに本当の歴史と民衆が被った被害の痛みを伝えようと、市民集会「80年目の南京」を開催しました。草の根からの日中友好を願う団体・個人が実行委員会を結成して開催する形は、今年で3回目となり、日中友好協会大阪府連も1回目から参加しています。



会場いっぱいに集まった市民集会「80年目の南京」=11月26日、大阪市中央区内

育が推し進められようとしています。

私たちは、昨年12月3日の集会「南京の記憶を忘れない」終了直後から、80年目に当たる今年の集会について相談会を持ち、5月の学習会「日本軍「慰安婦」制度と『日韓合意』の問題点」も企画しながら、ほぼ毎月1回のペースで実行委員会を重ねてきました。

今回の成功のため、実行委員のそれぞれが、つながりのありなしを問わず、手分けして1万7千枚のチラシをまききり、参加を訴え。開場1時半前から続々と人が詰めかけ、集会が始まった直後にはほぼ会場が埋まりました。

9条改憲の道を暴走する、第4次安倍内閣閣僚20名のうち、自民党所属閣僚19名全員が日本会議国議員懇談会(日本会議議連)などの右翼団体に所属。靖国神社の戦争博物館「遊就館」の展示が示すように、日本の過去の侵略戦争を「アジア解放」の「正義の戦争」として美化・正当化する「靖国」史観に立つ「靖国派」議員です。

最大の右翼団体「日本会議」やその他の右翼団体も市民社会に浸透し、学生たちが使用する歴史教科書や公民教科書もあからさまに捻じ曲げられ、道徳教育が推し進められようとしています。

集会は、最初に毎日新聞編集委員の湯谷茂樹さんによる「記者が報じた南京大虐殺」の講演で、戦後の南京検証報道、南京攻略戦に参加した元兵士の三谷翔さんへの取材を中心とする自身の南京報道を語り、1937年当時の新聞映像を使って“報じられなかつた南京大虐殺”を示しました。

続いて、集い直前の9月に亡くなつた三谷さんや、この間亡くなつた性暴力被害者への追悼を行つた後、生前の三谷翔さんとの生々しい南京大虐殺の体験インタビュー映像が流されました。

集会の最後には、ドキュメンタリー映画「何十年変わらず南京大虐殺の真相を追及した一般市民の松岡環」が上映されました。この映画は、中国の江蘇省テレビ局が「南京大虐殺は人類史上最も悪辣な暴行の一つであり、日本の軍国主義が中国で起こした残酷な暴行でありこれは世界、全人類の痛哭な歴史であるといえよう」とした上で、「しかし暗黒恐怖の中に有つても一条の光を見出し、絶望から中国同胞を救い助けてくれた20数人の西洋人たちがいる」とし、当時南京で人道的に活躍した7人の欧米人と現在歴史を発掘する3人の日本人に焦点を当てて制作された10編のドキュメンタリー映画の1編です。

今回、つどい開催に当たり、江蘇省テレビ局が特別に上映を許可してくれたことで実現しました。現物は中国語なので、日本語版作成のため字幕を入れるなどの苦労もありました。

今回のつどい成功を糧に、大阪府連として、今後も不再戦活動として取り組みを発展させ、日本の過去の侵略戦争を「アジア解放」の「正義の戦争」として美化・正当化する「靖国」史観に立つ安倍内閣の9条改憲暴走を許さない運動を幅広い共同で取り組んでいきます。

(まつお・ゆたか)